



私たちがいかに恵まれているか

■ C.W. ニコル

私は1962年10月に武道を学ぶために初めて来日しました。道場や練習後の飲み会で友だちを作るのは簡単でした。日本は非常にフレンドリーなところですよ。知らないバーや居酒屋に安心して入ることができるし、どの路地にでも入って行けます。フレンドリーで礼儀正しい人に対しては、日本人はちゃんと応対してくれます。

日本の巨大な近代都市は、私が訪ねた他国の大都市よりはるかに安全です。東京にいて誰かに襲われる心配はありません。個人的に私は田舎生活が好きです。自分たちの野菜を育て、大きな冷蔵庫に、野生のシカ肉、イノシシ、あひる、ウズラ、ニュージーランドラム、たくさんの種類の冷凍野菜や冷凍きのこを蓄えています。飢えることなんてありません。田舎は寂しい？ そんなことはありません。私には多くの友だちや来客がいますし、快適な机の上から世界中と通信できます。

本稿を執筆する今、雪が降っています。しかし、家は暖かい。深夜にもし雪が深く積もれば、起床前に除雪機が道の除雪をしてくれるでしょう。そうすれば家を出て1日以内に日本のどの街にでも到達できます。

日本の生活で良いことをリストアップしていけば、本棚がいっぱいになってしまったことでしょう。

そう、昨年は東日本が地震、津波、さらに気の滅入る福島原子力災害によるショックと

■ C.W. ニコル

作家、(財)C.W.ニコル・アフアの森財団理事長

1940年イギリス南ウェールズ生まれ。カナダ水産調査局北極生物研究所の技官・環境局の環境問題緊急対策官やエチオピアのシミエン山岳国立公園の公園長など世界各地で環境保護活動を行い、1980年から長野在住。84年から荒れ果てた里山を購入し「アフアの森」と名づけ、森の再生活動を始める。1995年日本国籍を取得。



悲しみに見舞われました。私たちはたくさんの同胞を失いました。私たちの心は、家族を失った人々に注がれています。しかし、被災地では争いごとを見たことはありません。個々の人には好き嫌いがあるのかもしれませんが、日本では憎しみというものに出会ったことはありません。さらに言論の自由と、多くの国にない信教の自由があります。

日本の68%は森林で覆われているので、安全で良好な飲料水の安定供給があります。もし私たちがもっとこれらの森林を育て賢く利用することに努力していたならば、私たちの生活のすべてがもっと良いものになっていたでしょう。森林は私たちの水資源を保証してくれるだけでなく、燃料と食べ物(山菜、きのこ、果物、ナッツ、野生のシカ、イノシシ、ウサギなど)を提供してくれます。手入れの行き届いた森林は癒しの場所にもなります。森林植物のすべてが昼間酸素を発生しますが、木はまた、ウイルスを中和する精油を放ちます。

日本は最も長い海岸線を持つ国の1つで、それはアラスカを除く米国の海岸線よりも長いものです。つまり、それは漁業の多種性を意味しているに違いありません。私たちが目を覚まし、この美しい島国の驚くべき多様な自然を気遣うならば、私たちは確実に地球上で最も幸せで、健康で、安全な国の1つとなります。私たちは目を覚ます必要があります！

